２	一宮	千秋南小学校	オオノ　ヤスマサ 名前　大野　泰正

分科会番号	３	分科会名	社会科教育　（小学校）

社会的な見方･考え方を働かせ，主体的･対話的で深い学びを実現しようとする児童の育成
―個別最適な学習と協働的な学習の充実を通して―

Ⅰ　はじめに

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」が到来し，先行きが不透明な「予測困難な時代」を生きる子どもたちには，目の前の事象から解決すべき課題を見出し，主体的に考え，多様な立場の者が協働的に，納得解を生み出す資質・能力が一層強く求められている。また，中央教育審議会の答申では，『2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿』として，我々教員に個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことを求めている。

そこで，本研究では，「社会的な見方・考え方」を働かせる学習を基盤とした「主体的・対話的で深い学び」の在り方をテーマとした。そして，主体的な学びを生み出す「個別最適な学び」と他者との関わりの中で学びを広げ，深める「協働的な学び」の一体的な充実を副題として取り上げ，２つの学びをつなぐための手段である一人一台端末の有効な活用法についても研究を進めていくこととした。

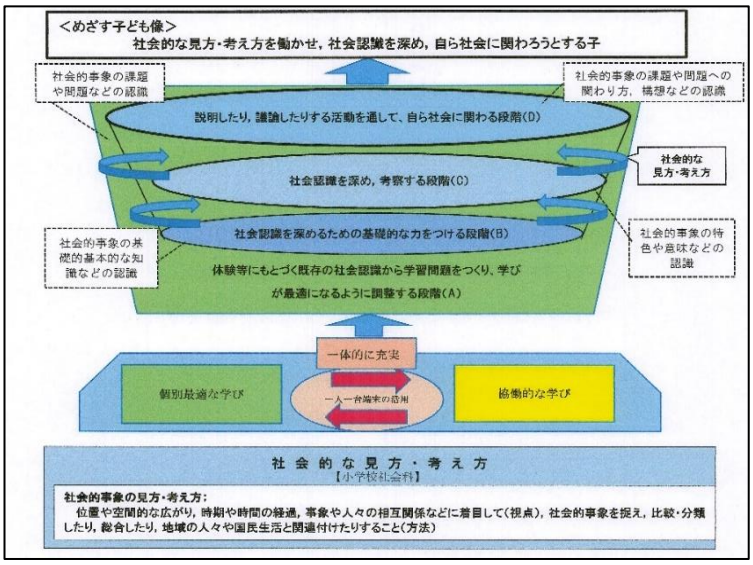
Ⅱ　研究内容

１　めざす子ども像

社会的な見方・考え方を働かせ，社会認識を深め，自ら社会に関わろうとする子

※　「社会認識を深め」とは，社会的事象に関する名称等の基礎的基本的な知識，特色や意味，課題や問題，その解決へ向けた関わり方等に関して認識することである。

※　「自ら社会に関わろうとする子」とは，学習問題を踏まえて実社会に目を向け，学んだことを活かそうとする子，また，現代社会の諸問題に対して，自分なりの考えを表現したり，解決策を構想または社会への関わり方を選択・判断したりできる子である。



２　研究仮説

めざす子ども像に迫るために，学習段階を，「体験等にもとづく既存の社会認識から学習問題をつくり，学びが最適になるよう調整する段階（A)」，「社会認識を深めるための基礎的な力をつける段階（B)」，「社会認識を深め，考察する段階（C)」，「説明したり，議論したりする活動を通して自ら社会に関わる段階（D)」の４つでとらえ，学習を構成する。４つの学習段階を設定したうえで，以下の研究仮説を設定した。

４つの学習活動を段階的に，また，繰り返し設定し，各段階に適した学びの形（「個別最適な学び」と「協働的な学び」）をとることで，学習問題についての解決策を構想したり，社会との関わり方を選択・判断したりする「深い学び」を実現することができるであろう。

Ⅲ　研究の実際

１　単元名　「これからの食料生産とわたしたち」

２　「目指す子ども像」に迫るための手立て

Ａ　体験等にもとづく既存の社会認識から学習問題をつくり，学びが最適になるよう調整する段階

【手立て①】社会的事象について，興味関心や疑問，問題意識をもたせる工夫

【手立て②】学習を見通し，振り返り，よりよく調整するための**社会科カード**の活用

Ｂ　社会認識を深めるための基礎的な力をつける段階

【手立て③】学習を見通し，社会的な見方・考え方を働かせるための**単元ナビ**の活用

Ｃ　社会認識を深め，考察する段階

【手立て④】多面的・多角的に考えるための**思考ツール**の活用

Ｄ　説明したり，議論したりする活動を通して自ら社会に関わる段階

【手立て⑤】学習問題について複数の立場から多角的に考察し，話し合う場の設定

３　検証の方法

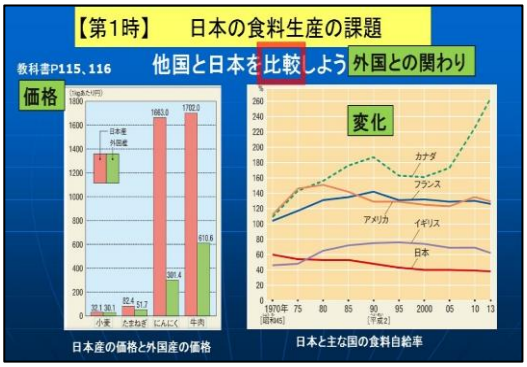
抽出児童のワークシートの記述や発言等をもとに，「目指す子ども像」に迫る手立ての有効性を検証する。
また，他の児童のワークシートの記述や発言等を取り上げ，実践の全体像が見えるようにする。

<各段階で高めたい力>
段階Ａ　学習問題をつくり，学びを調整する力
段階Ｂ　具体的知識を獲得するための基礎的な力
段階Ｃ　社会的事象を考察する力
段階Ｄ　説明したり，議論したりする活動を通して，自ら社会に関わる力

	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	学習への取り組み・様子
児童ⓐ	低位	低位	中位	低位	・社会科への学習への関心は，あまり高くない。 ・資料を読み取ることが苦手である。 ・話し合い活動は好きである。
児童ⓑ	低位	中位	中位	中位	・社会科への学習への関心は，あまり高くない。 ・自分の考えを記述することはおおむねできるが，多面的，多角的に捉えるまでには至っていない。 ・ひとりでの学習を好み，話し合いの場では，発言に消極的である。
児童ⓒ	中位	高位	中位	中位	・他教科に比べると，社会科への学習への関心は高くない。 ・社会科を暗記科目と捉え，テストに向けて用語・語句を暗記しようと頑張っている。 ・複数の要因や視点から考えて，考えをまとめるまでには至っていない。 ・自分の考えを発表することは得意である。進んで話し合い活動に参加できる。

４　授業の実際

資料１「　単元ナビ（第１時より抜粋）　」



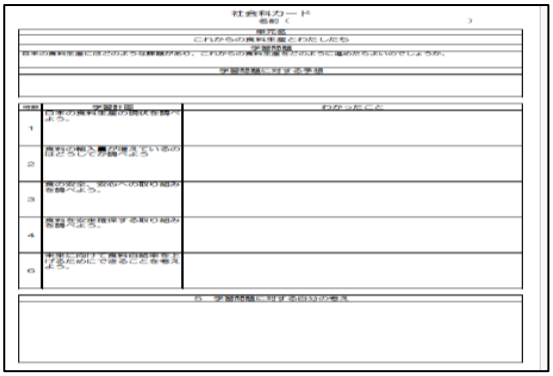
【第１時】

単元の導入である第１時では，社会的事象について興味関心や疑問，問題意識をもてるよう，代表的日本食であるてんぷらそばと寿司の食材の産地や自給率を調べた。代表的な日本食の材料は，ほとんどが外国産であることに児童は驚いていた。食材が海外からの輸入に頼っている現状から，「なぜ」「どうなっているのか」といった児童の日本の食料生産に関する問題意識を掘り起こすことができた。次に**単元ナビ**（資料１）を用いて資料の読み取りを行った。**単元ナビ**とは，社会的な見方（視点）・考え方（方法）を働かせるために，教師が意図した資料を提示することで，単元全体や本時の学習の流れを見通すことができる資料である。また，Google Classroom 上に掲載することで，児童が自由に閲覧することができるようにした。他の国と日本の農産物の価格や食料自給率の変化，国内の農産物の種類別の自給率を比較した。この比較をもとに，日本の食料生産や食料自給率をめぐる成果と課題，疑問について考え，一人一台の端末に配信された**思考ツール①「PMI シート」**（資料２）に個別に記入した。子どもたちから出された疑問をもとに，話し合い，学習問題をつくった。**社会科カード**（資料３）に予想を記入し，予想をもとに学習計画を立て，単元の見通しをもつことができた。

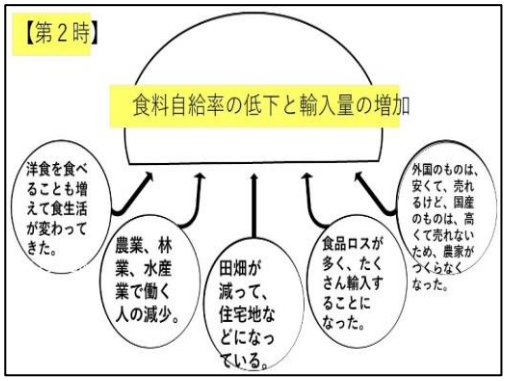
資料２「　PMI シート（第１時）　」

良いところ（成果）	良くないところ（課題）	気になるところ（疑問）
・外国産と国産を比較すると、米や野菜は、生産量が多い。 ・日本の食べ物は安心、安全な状態でたべられる。 ・日本は、米の自給率が高い。 ・お米はほとんど自給している ・野菜や牛乳などの乳製品も大体日本で自給ができている ・輸入ができる（信頼ある） ・外国産でも美味しく食べれる ・逆にたくさん輸入が出来ていること。 ・外国産だが、輸入ができているので、美味しくお寿司や、天ぷらそばが食べれる。 ・外国と良い関係 ・安全性が、高いところ。	・食料自給率が減っている。 ・他の国と比べて食べ物の自給率が低い。 ・40年前と比べると、食料自給率は、約３分の２になっている。 ・日本の食料は、多くを輸入に頼っている。（小麦や大豆のほとんどを輸入している） ・海外と違いほとんど自分の国で自給していない ・輸入がどんどん増えている。 ・自給率が一番高いのはカナダと比べると日本は、差がある。 ・物価が高い。 ・人手不足。 ・魚の数が減ってきている。	・代表的な日本食なのに外国産でいいのか。 ・どうして日本だけこんなに食料自給率が低いのか。 ・４０年前に比べると、食料自給率は、約３分の２に減っているのはなぜか。 ・なぜこんなに海外に頼っているのか ・どうしたら他の国との差をちぢめられるか。 ・スーパーでお肉を買うとき、国産の方が、価格が高く、外国産は、輸入している費ようを入れていてもいれてなくても国産より安いのは、なぜなのか。 ・なぜこんなにも海外ものもと値段が違うのか。 ・小麦が戦争で高騰しているのでもっと高騰しないか心配。 ・コロナよりもっと強い病気が出たらどうなるのか。 ・もし、輸入ができなくなったらどうなるのか。 ・海外も日本も今よりも、もっと生産量が減ったらどうするか。

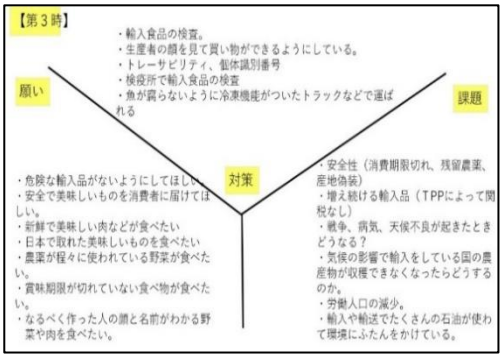
資料３「　社会科カード　」



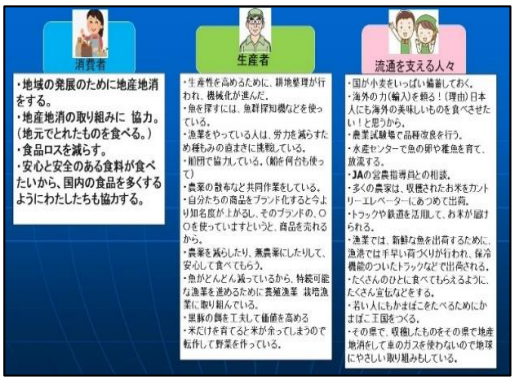
資料４　「　クラゲチャート　」



資料５「　Ｙチャート　」



資料６　「　表　」



【第２時】

第２時では，まず，**単元ナビ**や教科書，端末を使って，資料の読み取り活動を行った。昔と今の食事の写真資料を比較し，食生活の変化を捉えた。食品別の輸入量の変化についての折れ線グラフを，輸入食品が増えている時期や品目に着目し，食生活と輸入量の変化を関連付けながら調べた。次に，食生活が豊かになる一方で起きている食品の廃棄の問題についても考えた。そして，食料自給率の低下と輸入量の増加の原因について調べたことを，**思考ツール②「クラゲチャート」**（資料４）にまとめた。

【第３時】

第３時では，まず，食の安全・安心の取り組みを調べた。食の安全に関する新聞記事を読み，もしも食料の確保を輸入にだけ頼っていたら，どのような食の安全・安心についての課題があるかを考えた。教科書や新聞記事，**単元ナビ**，端末を用いて，食の安全・安心を確保するための仕組みや対策に着目して調べた。調べた課題，生産者や流通を支える人々の食の安全・安心を確保する工夫や努力，消費者の願いを相互に関連付けて，**思考ツール③「Ｙチャート」**（資料５）にまとめた。これにより，多くの児童が食の安全・安心について多面的・多角的に考えを深めることができた。

【第４時】

第４時では，まず，資料の読み取りを行い，食料の安定確保のための日本の課題について調べた。第２時で調べた日本の食料自給率が低い原因を振り返り，１次産業に携わる労働人口の変化や土地利用の変化と関連付けながら，課題について調べた。課題を踏まえて，日本の食料自給率を上げるためにはどうすべきかを消費者，生産者，流通を支える人々の３つの立場から考え，**思考ツール④「表」**（資料６）にまとめた。

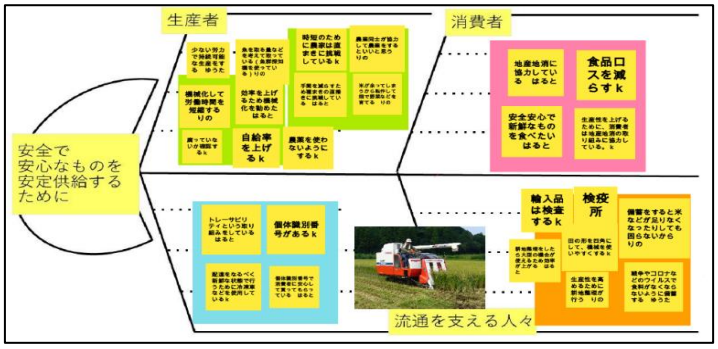
【第５時】

第５時の位置付けは，単元のまとめである。生産者や流通を支える人々の食の安全・安心を確保する工夫や努力，消費者の願いを関連付けて，考えを深められるよう話し合い活動を行った。そのために，これからの日本の食料生産をどのように進めたらよいかを議題として話し合った。消費者，生産者，流通に関わる人々の３

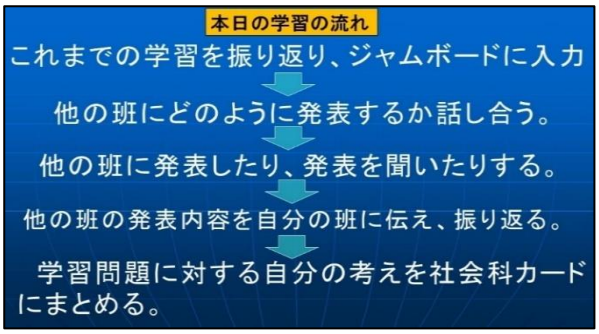
つの立場で，安全で安心なものを安定供給するためにどうすればよいかを多角的に考えた。これまで調べたことを持ち寄り，よりよい学びになるようにグループで意見を交流した。

児童は，グループで Google Jamboard を用いて，**思考ツール⑤「フィッシュボーン」**（資料７）に調べたことを分類整理した。加えて，学習問題について複数の立場から多角的に考察し，話し合うための場として，**ワールドカフェ方式**（資料８）を取り入れ，意見交流を行った。その際に，班でまとめた**フィッシュボーン**を用いて，他の班に議題について考えたことを発表したり，他の班に行き，発表を聞いたりした。その後，他の班と自分の班を比較し，同じところや違うところを自分の班に伝え，振り返る活動を行った。最後に，学習問題に対する自分の考えを**社会科カード**にまとめた。これまで**社会科カード**に記入した各時のまとめを振り返ったり，話し合い活動でまとめた**フィッシュボーン**を俯瞰したりしながら，どの児童も自分の考えを記入することができた。

資料７「　フィッシュボーン　」



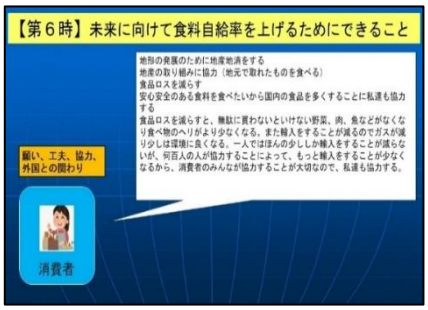
資料８「　ワールドカフェの流れ　」



【第６時】

第６時は，学んだことをいかす場面と位置付けた。まず，これからの農業や水産業の発展に向けた新しい食料生産の工夫について調べた。次に，これまで学んだことをいかして，未来に向けて食料自給率を上げるためにできる取り組みについて，消費者，生産者，流通を支える人々の立場で考え，**思考ツール⑥「吹き出し」**（資料９）にまとめた。多くの児童は，これまでの学習をもとに生産者や消費者などそれぞれの立場になりきって，自分なりの考えをもつことができた。さらに，食料生産に関する課題の解決策を構想し，これからの農業や水産業の発展について考え表現することができた児童もいた。

資料９「　吹き出し　」



４　研究の成果と今後の課題

（１）　体験等にもとづく既存の社会認識から学習問題をつくり，学びが最適になるよう調整する段階（Ａ）

【手立て①】では，「天ぷらそばと寿司のふるさと」という身近な資料を提示し，社会的事象との出会わせ方を工夫した。児童ⓐは「びっくりした」と驚きをもって社会的事象を受け止めていた。児童ⓑは，「他国との食料自給率の差をどうしたら縮めることができるか調べたい」と比較して考えており，社会的事象への関心を高めることができた。児童ⓒは，戦時等で輸入ができなくなったり，価格が高騰したりすることを心配し，自分の生活と関連付けて社会的事象を捉えていた。このように，身近な教材から，調べたいという切実感をもたせることが，学習の動機づけになることが明らかになったため，手立て①は，有効であったと考えられる。

【手立て②】では，学習問題に対する自分の考えをまとめる際，各時で得た自分の考えの蓄積を用いることができたといえる（資料１０）。児童ⓒの学習問題に対する自分の考えが，どの授業を手掛かりにしているのかを，児童ⓒの社会科カードの記述をもとに見取ると，第１時から第４時まで獲得した食料自給率低下

の原因や食の安全・安心，安定確保の工夫を踏まえたうえで，消費者や生産者と流通を支える人々の願いと思いに結び付けて考察していることがわかる。

また，児童ⓒの学習問題についての自分の予想と学習問題についての自分の考えを比べると，着目する視点が増えている。加えて，願いや思い，工夫や対策といった事象や人々の相互関係の視点に着目して，社会認識を深めたことが読み取れる。各時で社会的な見方・考え方を働かせ，深めた社会認識が学習問題についての自分の考えを導き出すためにも役立っていることがわかったため，手立て②は，有効であったと考えられる。

資料１０「児童ⓒの社会科カードの記述（抜粋）」

学習問題に対する自分の予想
日本の食料生産の現状は、海外に頼りすぎている（輸入をしているものがとてもに多い　米や乳製品はある程度自給自足ができている）ことです。もっと、自給自足をしてカナダなど自給自足ができている国と同じくらいになっていくのが今後の課題になってくるかなと思います。

時	めあて	児童ⓒの社会科カードの記述（抜粋）
1	日本の食料生産の現状を調べよう。	日本の食料生産の現状は、輸入がほとんどだということがわかりました。それに輸入ができるということは海外から信頼があるということになります！しかし良くないところもたくさんあります。海外と違いほとんど自分の国で自給自足していないもっと、自給自足をするのが今後の課題だと思います。
2	食料の輸入量が増えているのはどうしてか調べよう	他にも、農業・林業・水産業の仕事の人がどんどん減って土地の利用度が減っています。
3	食の安全、安心への取り組みを調べよう。	消費者には、新鮮で美味しい肉などが食べたい　日本で取れた美味しいものを食べたい　農薬が程々に使われている野菜が食べたい。なるべく作った人の顔と名前がわかる野菜などを食べたいという願いがあります。気候の影響で輸入をしている国の農産物が収穫できなくなったらどうするのか。輸入している食品は、どこでどのように生産してるかわかりにくいから安全性を心配する人がいる。
4	食料を安定確保する取り組みを調べよう。	食料を安定して確保する取り組みは、食料自給率を上げることである。人手不足解消をするために今農業をしている若い人たちが子供たちに呼びかけているという工夫があります。

５　学習問題に対する自分の考え
日本の食料生産には、輸入に頼りすぎていることや、自給率が他の国より低いこと、小麦や大豆はほとんど日本で作っていないこと、魚を取りすぎていること、米を作りすぎていることなど色々な課題がありました。そして、水産業でも農業でもあった、人手不足も大きな課題となっています。輸入に頼りすぎている＝海外からの信頼があるということになりますが、もし海外の何処かの国で病気や、天候不良などが起きたときに、食べるものがなくなってしまいますでも、海外のものがなしだと日本では作れないものが食べられなくなります。なので程々に輸入しながら、少しずつ自給率を上げつつ日本の食料生産を進めていけばいいと思います。人手不足は、農業をしている人たちのほとんどが高齢者（60代）くらいの人なので、いつか農業をしている人がどんどん減っていっています。人手不足解消をするために今農業をしている若い人たちが子供たちに呼びかけています。この取り組みで、人手不足が解消すればいいなと思います。

※下線部は，学習問題に対する自分の考えをまとめる際，児童ⓒがこれまでの学習を手掛かりにしていると読み取れる箇所

（２）「社会認識を深めるための基礎的な力をつける段階（Ｂ）

【手立て③】では，　単元ナビを活用して，他の国と日本の農産物の価格や食料自給率の変化，国内の農産物の種類別の自給率を比較させた。単元ナビで明示した社会的な見方は，「変化」「外国との関わり」，考え方は，「比較」である。社会科カードの記述（資料１１）から見取ると，児童ⓐは，外国との関わりの視点に着目して，輸入できるのは，「外国とよい関係」が築けていることを捉えた。変化の視点に着目して，食料自給率が「下がっている」ことも気づいていた。「40 年前と比べて」という記述から，比較して考え，日本の食料生産の現状を把握することができたのである。同様に児童ⓑⓒも社会的な見方・考え方を働かせて資料を読み取ることができたことが，社会科カードの記述（資料１１）からわかるため，手立て③は，有効であったと考えられる。

資料１１「児童ⓐ，ⓑ，ⓒの社会科カードの記述」

児童	社会科カードの記述（第1時）
ⓐ	良いところ　外国と良い関係、米の自給率が高い。良くないところ　日本食の材料も輸入に頼っている、外国産は安い、小麦、大豆が特に自給率が低い。気になるところ　このままでいいのか?どうして日本だけこんなに少ないのか、40年前と比べると20%下がっているどうしてか　なぜ牛肉やにんにくの値段が高いのか。コロナより強い病気が出たらどうする
ⓑ	日本はねだん高かったり食料自給率が低く、他の国より劣っている。しかし、米は自給率が高く、外国との関係もよい。なので、自給率が低い物は高くしていかないといけない。
ⓒ	日本の食料生産の現状は、輸入がほとんどだということがわかりました。それに輸入ができるということは海外から信頼があるということになります！しかし良くないところもたくさんあります。海外と違いほとんど自分の国で自給自足していない大豆や小麦などほとんど海外で作っている自。給率が一番高いのはカナダで、カナダと比べると日本は、70～80%ほど差があります。なのでこれをふまえて日本への私の疑問は40年前と比べると自給率が4分の3になっているのはなぜなのか。もっと、自給自足をするのが今後の課題だと思います。

※下線部は，社会的見方・考え方を働かせていると読み取れる記述

（３）社会認識を深め，考察する段階（Ｃ）

【手立て④】について，第３時では，Ｙチャートを活用することで，視点に沿って意見を分類・整理することができ，多面的に考察できた。第３時の社会科カードの記述（資料１２）からわかるように，児童ⓐは，消費者の願いと流通を支える人の安全対策を中心に考えをまとめた。児童ⓑは，「産地の偽装」「農薬が多い（残留農薬）」といった実社会の安全上の課題，「戦争，天候不良，病気」という食料の安全保障に至るまで多面的に考えたうえで，消費者の立場の「願い」と流通を支える人々の立場の「対策」を関連付けて考えることができた。また，児童ⓒは，事象や人々の相互関係の視点に着目し，「消費者の願い」「消費者の願いに対する対策」と記述することができた。「輸入は石油を使うので環境に悪い」「気候の影響で，農作物が輸入できなくなったらどうするか」といった位置や空間の広がりにも着目し，調べたことを分類・整理することができた。このように，児童ⓐⓑⓒの社会科カードの記述から，社会的事象を多面的・多角的に捉え，社会認識を深めたことが読み取れるため，手立て④は，有効であったと考えられる。

資料１２「社会科カードの記述」

児童	児童ⓐ，ⓑ，ⓒの社会科カードの記述（第３時抜粋）
ⓐ	願い　賞味期限が切れて食べられない状態になっていないか　どのような農薬を使われているか分かれば安心 対策　出荷するときに肉が腐っていないか確認している　肉が赤くなっていないか。生産者の顔が見れる野菜を販売するなど 課題　食べ物のことで新聞を出すいろんな人々が気をつけてくれる外国の人々が日本の法律を合格してくれている。
ⓑ	安心・安全な食品を作るための課題は、産地のぎそうや消費きげん・消味きげん切れ、農薬が多い、せんそう・天候不良・病気が起きたらどうするかなどがあり、対さくもトレーサビリティー（個体しき別ばん号）をつけて安全性が分かるようにしたり、検査などもしていて、生産者の顔・名前をひょう示していた。そして消費者のねがいとしては、おいしくて新せん、安全が高い物をていきょうしてほしい、農薬を少なくしてほしいなど、いろんな事が分かった。国も生産者も、課題にせっきょく的に取りくんでいた。
ⓒ	食への安全、安心のへの取り組みは、まず消費者の願いがあります。新鮮で美味しい肉などが食べたい　日本で取れた美味しいものを食べたいという願いです。そして消費者の願いに対する対策は、輸入を行うときはきちんと検査をするようにするという対策です。輸入には石油を使うので環境に悪い。気候の影響で輸入をしている国の農産物が収穫できなくなったらどうするのか。輸入している食品は、どこでどのように生産してるかわかりにくいから安全性を心配する人がいる。

※下線部は，時期や時間の経過，位置や空間的な広がりの視点，事象や人々の相互関係の視点に着目できていると読み取れる記述

（４）説明したり，議論したりする活動を通して自ら社会に関わる段階（Ｄ）

【手立て⑤】では，単元のまとめの段階において，学習問題の答えに迫るために複数の立場で多角的に考察する場を設定した。安全・安心な食料を安定供給するためにどうすればよいか，これからの食料生産について考え，話し合った。第５時では，生産者や消費者，流通にかかわる人々の３つの立場で多角的に考え，調べたことをフィッシュボーンに分類整理した。児童ⓑの付箋の記述（資料１３）をみると，はじめは，生産者の立場において「時短」「共同作業」，消費者の立場で「地産地消」「食品ロスをなくす」，流通を支える人々の立場において「備蓄」「耕地整理」と捉えていた。グループでの話し合いを通して，生産者の立場において「食料生産の目標」をたてること，流通を支える人々の立場において，「流通を支える人は生産者と協力をしている」「生産者の顔が見えると安心」「輸入できるのは，外国との関係がいい」といった発言（資料１４）を聞いて，自分の考えを見つめ直し，再構成することができたことが，社会科カードの記述から読み取ることができる。（資料１５）話し合い活動を行ったことで，児童ⓑは，生産者と流通を支える人々，消費者の思いと願いの関連を捉え，社会認識を深めることができたといえる。加えて，児童ⓑの学習問題に対する自分の考えの記述（資料１５）を見取ると，これまでの学びや話し合いを通して，実社会の食料生産の課題を把握し，これからの社会がよりよくなるように解決に向けて考えを深めていることがわかる。食料生産の発展について構想し，自ら社会に関わろうとしているのである。学習問題について複数の立場から多角的に考察し，話し合う場の設定したことで，児童の社会認識が深まり，自ら社会に関わろうとする姿勢を育成できたことが児童ⓑの記述から読み取れる。以上の結果から，手立て⑤は，有効であったと考えられる。

資料１３「児童ⓑの付箋の記述」

立場	児童ⓑの付箋の記述
生産者	・時短するため、農家は直まきにちょう戦している。 ・農業をまいたり機械をかったり、共同作業をしている。
消費者	・ブランド化し、地産地消をしている。 ・食品ロスをなくす
流通を支える人	・わかい人にもかまぼこを食べてもらうため、長崎かんぼこ王国を作る。 ・米や小麦をびちくしておく ・水産センターで魚をそだて、放流する。 ・生産性を高めるために、こう地整理が行われた。

資料１４「児童ⓑと同じ班の児童の付箋の記述（抜粋）」

立場	児童ⓑと同じ班の児童の付箋の記述
生産者	・農業を減らすことで消費者が安心してご飯を買える。 ・これからの食料生産の目標を決め、それに向けて頑張っている ・消費者に美味しいごはんを届けたい。 ・機械を使っている。
消費者	安全で美味しい食べ物を食べたい
流通を支える人	流通を支える人々は生産者と協力し、工夫や対策をしている 少しでも輸入を減らすため、流通の人々は生産者と協力し輸入を減らせるようにしている 輸入できるのは、外国と関係がいい。 生産者の顔が見えると安心 輸入品の検査をしている 輸入品が届いたら賞味期限が大丈夫か検査している。

※下線部は，児童ⓑが自分の考えを見直すきっかけとなったと読み取れる同じ班の児童の付箋の記述

資料１５「児童ⓑの社会科カードの記述」

社会科カードの記述（第5時　学習問題に対する自分の考え）
日本は食料自給率が低く、他の国とくらべると大きな差があり、輸入にたより過ぎていたり、物価が高いなど、様々な課題があった。だけど、輸入ができているのも逆にすごいことだったり、米や野菜、牛にゅうは自給りつが高いなど、良いところもたくさんあった。そして生産者も流通を支える人々も、課題にとりくんでいた。例えば、安全で産地が分かるよう、生産者の顔と名前が見えるようにしたり、トレーサビリティ（個体しき別ばん号）を商品に書いたりしていた。そして、日本の食生活も変わってきていた。和食だけでなく洋食も多くなっていた。輸入にたより過ぎず、協力してよいところを残しながら今ある課題をなくしていくのが、国と生産者、流通を支える人々と消費者の目ひょうだと思った。

※下線部は，児童ⓑが同じ班の児童の意見を踏まえ，自分の考えを再構成したと読み取れる記述

（５）全体を通して

実践の前後に社会科についてのアンケートを令和５年度一宮市立富士小学校５年３組２５名を対象に行った。アンケート結果（資料１６）からわかる通り，すべての項目で数値が上昇しており，Ａ～Ｄの段階のすべての手立てが有効であったことがわかる。Ａの段階の手立て②が，特に有効であった。「学習問題や学習計画を，単元を通して見通したり，振り返ったりして学習していますか。」という質問に対して，「はい」「どちらかというとはい」と答えた児童の割合が，事前（５月）の３２％から事後（１０月）９６％と，６４％数値が上昇した。これは，問題解決的な学習過程と思考の流れが児童に定着し，主体的な学びにつながった成果だといえる。

資料１６　社会科アンケートにおいて、「はい」「どちらかというと、はい」と答えた割合の実践前後の比較　(%)

段階	質問内容	事前（5月）		事後（10月）
A	学習問題や学習計画を単元を通して見通したり、振り返ったりして学習していますか。	32	→	96
B	資料を読み取るのは得意ですか。	56	→	72
C	思考ツールは、自分の考えを深めるうえで有効だと思いますか。	72	→	88
D	話し合い活動は、自分の考えを深めるうえで有効だと思いますか。	52	→	80
すべて	クロームブックを活用して学習することは、理解を深めるうえで有効だと思いますか。	84	→	100

（６）今後の課題

個別最適な学びを充実させるためにも，学習の個性化を図っていきたい。そのためには，追究する課題やまとめの方法，学習形態を児童が選択できるようにし，自由な進度で興味関心を尊重した学びが展開できる必要がある。複数の課題を複数時間で自らの学びを調整しながら行えるように学習過程の工夫していきたい。また，協働的な学びにおいては，社会的な見方・考え方を働かせ，社会認識を深め，説明し合うことはできたが，互いの意見や考えを議論まで発展させるまでに至らなかった。端末を使用する場，話し合いの場の設定や形態を今後工夫していきたい。また，級友との協働に限らず，地域の人や専門家など様々な人と異なる考え方が組み合わさり，より良い学びになるようにしていくことも今後の課題である。